

就任のご挨拶

稲むらの火の館
名誉館長 西 博義

この度、3月1日付で西岡利記広川町長より「稲むらの火の館」の名誉館長に任命の辞令をいただきました。

昨年12月22日、国連総会本会議で、郷里の偉人濱口梧陵翁の事績で有名な安政の大津波の起った日、11月5日を「世界津波の日」に制定されるという重要な時期に、名誉館長に就任することになり、責任の重さに身の引き締まる思いです。

これからは、崎山館長はじめ、職員と力を合わせて、頑張っまいますので、ご指導賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

アチェ州知事御来館

1月16日、「稲むらの火の館」とインドネシア共和国の「アチェ津波博物館」との間で、津波防災の情報発信等での協力協定の調印をしました。3月8日、アチェ州のザイニ・アブドゥラ知事夫妻一行が来館されました。

アチェは皆様のご記憶にもあると思いますが、平成16年12月26日のスマトラ島沖地震・インド洋津波の被災地です。一番大きな被害のあった所です。館内では、3D映画や津波



シミュレーションをご覧になりながら、アチェの被災体験も話されていました。

「世界津波の日」制定記念行事

昨年12月、「稲むらの火」の11月5日が第70回国連総会で「世界津波の日」に制定されました。これをお祝いするために、2月26日には和歌山県民文化会館で広川町と和歌山県の主催による「世界津波の日制定記念講演と稲



むら太鼓」が開催されました。

開会行事に続いて、第一部は関西大学社会安全学部の河田恵昭教授が「和歌山から発信する世界津波防災の知恵」という講演をされました。「南海地震は必ず起る。南海トラフの巨大地震はとんでもない津波。他人事ではなく、逃げるが勝ちということを肝に銘じてほしい。」という事を話された。

第二部では、広小学校5、6年生が「稲むら



の火～津波から村を守った庄屋の話」という合唱がありました。その後、特別ゲストの杉良太郎・伍代夏子御夫妻による挨拶(トークショー)があり、ユーモアたっぷりのお話に観衆は聞き入っていました。次に、杉さんが構成・プロデュースした「稲むら太鼓」が演奏されました。

書籍・雑誌やパンフレットに
記事掲載されています

最近、いろいろな雑誌やパンフレットに「稲むらの火」や「世界津波の日」に関する記事等が掲載されています。



「耐久高校同窓会報」
「道路建設」
「ホンダのPR誌「スマイルアップ」」
「日本NPO学会」

ニューズレターに記事が掲載されています。

また、書籍にも「稲むらの火」「濱口梧陵」が取り上げられています。

前 壽人著
「第三の男傑」、
前氏は耐久高校の卒業生で、「館」へも取材に来られ、資料提供もしました



し、「濱口梧陵」のボリュームが多いです。前作は「明恵さん」です。

豊田ひさき著『「東井義雄の授業づくり」第四章で「稲むらの火」の授業とESD』として書かれています。次は、愛葉常二氏の『「3・11 東日本大震災あれから五年 被災地のこころと向き合って一復興への軌跡」』の中で、第三章の一、「稲むらの火」に学ぶ防災と災害復興』として掲載されています。愛葉氏には電話で取材を受けたり、当館の資料も参考にされて著されたようです。

3, 11から5年が経過

東日本大震災の平成23年3月11日から5年が経過しました。あらためて、津波防災を考える日でもありました。

この日、広小学校では広八幡神社までの避難訓練がありました。その後、校庭で和歌山県警察や湯浅・広川消防署の救助訓練などが行われ、



ドクターヘリも校庭へ降りました。このような各種組織の訓練を一緒にするのも町内では珍しいと思いますが、子ども達にとっても良い経験になったと思います。

また、この日午後1時から和歌山放送が防災特別番組を放送し、「稲むらの火の館」からも中継放送がされました。アチェの州知事も、東北での5周年記念慰霊祭で来られたそうです。また、3月16日には「岩手日報」の記者さんも5周年特集の取材に来られ、「津波てんでんこ」の話などされていました。

<稲むらの火の館の紹介>

濱口梧陵記念館／津波防災教育センター

〒643-0071 住所 広川町広671

TEL：0737-64-1760／FAX：0737-64-1761

<http://www.town.hirogawa.wakayama.jp/inamurano>
hi/

*開館時間：午前10時～午後5時（受付終了4時）

*休館日：月曜日・火曜日（祝日開館）

年末年始（12/29～1/4）

*記念館だけの入場は無料です。